

別所公春祭り共催 剣道大会

各部で熱戦を展開

志染5年生トリオが健闘 (小学生女子高学年)

恒例の別所公春祭り共催剣道大会が三木市民体育館で市内の小学生から高校生選手103名を集めて行われた。

午前8時に受付が始まり、続いて合同稽古。まず小学生が大人にかかっている。続いて、中学・高校生が掛かる。選手たちの鋭い氣勢が体育館内に満ちあふれ、試合前の緊張感がいやがうえにも高まっていく。

約1時間たっぷり稽古すると開会式。別所公春祭りとあって、共催の武道大会は剣道だけではなく柔道、空手、弓道が市内で同時に開催されている。来賓の北井副市長、松本教育長は各会場で挨拶をするので分刻みのスケジュールだ。神澤正輝三木市剣道連盟会長は「剣先は相手に向けるが自分にも向ける。すなわち自分が正しい剣道をしているか、公明正大な態度で全力を出すことで相手に失礼で



はない剣道をしているか、常に自分問い続けることが重要」と、正しい剣道をするこの大切さを説かれた。

開会式の締めくくりには選手宣誓を別所少年剣道教室の木村祐樹選手が行った。式終了後、檜皮審判長の合図で4試合場で一斉に試合が始まり、各試合場が熱気に包まれた。

★小学4年以下女子低学年の部は、自由が丘トリオが独占した。(写真右から)
優勝 小林奈央(自) 準優勝 中山玲奈(自) 3位 磯口夢桜(自)



★小学4年以下男子の部は、吉川、志染、緑が丘の元気な選手が入賞を果たした。(写真右から)
優勝 森本隆文(吉) 準優勝 寺口和希(志) 3位 日原 弘翔(吉) 先坊 健輔(緑)



★小学5・6年女子の部は、志染の5年生が独占した。去る3月の東播少年剣道大会でも女子団体3位に入賞し、大活躍した5年生トリオは、他教室の6年生を抑えて見事入賞した。(写真右から)
優勝 寺口ひかる(志) 準優勝 照井葉生(志) 3位 中西涼風(志)



★小学5・6年男子の部は、三木中央の加村が、同じ中央に所属する東選手に競り勝って優勝。緑が丘の2人を寄せ付けなかった。(写真右から)
優勝 加村蓮(中) 準優勝 東隆啓(中) 3位 石田直史(緑) 3位 村岡巨章(緑)



★ 中学女子の部は少人数の戦いで、別所の末廣のスピードとパワーの前に、同じ別所の小山、三木中央の加村は及ばなかった。(写真右から)
 優勝 末廣美幸(別) 準優勝 小山祐依(別) 3位 加村仁奈(中)



★ 中学男子の部は、3年生の志染の上垣と、1年生ながら試合巧者の大前が躍進。気合十分でのぞんだ上垣が栄冠を手にした。準優勝に緑が丘の藤原、3位に大前と中央の日高が入った。(写真右から)
 優勝 上垣友基(志) 準優勝 藤原玄(緑) 3位 大前史央(志) 3位 日高龍世(中)



★ 高校女子の部は、各高校から入賞。三木の内村が三木東の佐々野を下して優勝、3位には三木北の森澤、三木東の金谷が入った。(写真右から) 優勝 内村友美(三木) 準優勝 佐々野みのり(三木東) 3位 守澤和沙(三木北) 3位 金谷美幸(三木東)



★ 高校男子の部結果は次の通り(写真右から)
 優勝 浅井優輔(三木) 準優勝 横山暖(三木北) 3位 中谷琢哉(三木北) 3位 森本響(三木)



トピックス 平成27年度剣道連盟 総会を終えて

5月5日(火)、午後3時30分より平成27年度三木市剣道連盟定期総会が三木市立平田小学校において開催された。会長が指名した大柴敏昭議長の見事進行により平成26年度事業報告及び決算報告、平成27年度事業計画案及び予算案などの議題が提案された。27年度の主要な事業は26年度を引き継ぐ形で成人指導部、青年指導部、少年指導部、学校指導部、事業企画部、広報部の活動が展開されることになる。

会員数(会費)減少に歯止めを・・・正・準会員の正確な把握と新会員の獲得に向けた取組を

現在会員名簿に記載されている会員の数約100名に比べ、実際に会費を納めている会員が少ない(約80名)という、いわゆる「幽霊会員」の扱いが問題になった。今後、現名簿を整理し、正会員と準会員、賛助会員を絞り込み、また、入退会、休会等の手続きや会費納入の期限と督促の方法などを明らかにするように検討することになった。

伊藤明裕氏が師範に

また、本年度の総会では、当連盟会員で自由が丘少年剣道教室の指導者である伊藤明裕教士八段を新たに当連盟の「師範」に推挙することと、それに伴う規約改正案が木下穂玄幹事長から提案された。伊藤氏の推挙について、神澤正輝会長が意見を述べた。満場一致で採択された。

伊藤師範の誕生により、師範を中心とした定期的な稽古会を実施することが計画されることになる。伊藤先生の指導による濃密な稽古が、悲願の東播地区剣道大会の優勝をめざす選手にとってもまたとない良い機会となるだろう。また一般会員にとっても一層のレベルアップとなることは間違いない。(報告 澤田 薫)

祝昇段(敬称略)

- 三段 芳村 利彦
5月17日 和田山町
- 四段 小阪 祐貴
2月22日 王子スポーツセンター
- 五段 西本英一郎
4月19日 王子スポーツセンター
- 六段 澤田 薫
5月17日 名古屋市

おめでとーうございませう

高橋洋三の 剣道よもやま話

近頃、刃物を持ち歩いて、出会いがしらに人に切り付け、時に、殺傷する事件が相次いだ。まことに物騒な話で、被害者には誠に気の毒なことだ。しかも「なんとなく人を殺してみたりした。」だの、動機もはつきりしないことが多い。そうでなくとも長い人生、どんなことに出逢うかわかったものではない。

長年剣道の修業をした身で、こんな時こそ危機一髪身を守るとか、人を助けることが出来なければ、随分口惜しいことではあるまいか。昔の武士なら、闇討ちや辻斬りにあつて不慮の死を遂げてもしたら、気の毒だと言うより、「土道不覚人」として家禄を召上げられたかもしれない。「やつぱり剣道をやっていた人は一味違う。」と言わせたいものだ。

昔の侍たちは、こういうま暮らしたことであろう。その気構えは生活の隅々までいき

わたっていた。思いつくだけでも、座礼の時、左手を先の下して次に右手を下した。左腰に差した小刀を利き手の右手で抜くためである。着物も袴もそれぞれ左腕、左足からは外側を回り、決して道沿いに回らなかつた。刺客が潜んでいるかもしれないからであつた。

今日の剣道が防具、竹刀による稽古法が主流となり、しかも打突部位が限定された競技になつた結果、武術としての要素が大いに狭められたと、僕は考えるのだが、どうだろう？

昔の武専剣道には足がらみや組打ちもあつたやに聞く。それらが危険だとして、今では反則になる。武術として剣道を考えると、当身(あてみ)や逆手(さかて)も大いに有効な技である。

少年のころから剣道の稽古

の中に、そういう武術としての体捌き、心構えを取り入れ、体で覚えさせることは、大切ではないだろうか。古武術各流派に残る、先人が伝えた技の数々を大いに取り入れたいものだ。

危険を避け、身を守るために、日頃修練している剣道が役立つところこそ肝要である。間合い感覚はそのひとつだが、反射神経、予知能力も大事だろう。体育館の入り口で履物を揃える心構えが身につけておれば、近頃よく年寄仲間でも、少しは防止できるかもしれない。

「暴虎馮河」はもとより戒めるべきことだが、危機に立ち向かう沈着冷静、勇猛果敢は必要だ。それには日頃の訓練が大事だろう。我々はいつても竹刀を持つて歩いているのではない。とつさの場合には体で捌く術を身に着ける必要がある。

一つだけささやかな体験を披露すると、過日、大阪の駅地下街で四方八方から押し寄

せる人ごみに圧倒された田舎者の僕は、迫る時間にせかされて、日本剣道形小太刀の仕太刀半身の姿勢よろしく、次々と人垣を抜けて行つた。実に愉快的体験であつた。



(三木市剣道連盟 相談役)

次号【173号】予告
○6月13日 昇級審査会結果
○京都大会に参加して
○中兵庫少年剣道大会・青少年健全育成剣道大会結果
○東播地区剣道指導法・審判法講習会
○高橋洋三の剣道よもやま話 ほか